

北広島エコミュージアム構想

—まるごときたひろ博物館—



北広島市

北広島エコミュージアム構想

—まるごときたひろ博物館—

北広島市

目次

はじめに	1
第1章 まちづくりとエコミュージアム	2
1. 背景となる社会情勢	2
(1) 情報化社会・国際化社会の進展	2
(2) せまられる環境問題への対応	
(3) 進行する少子高齢化	2
(4) 「地方の時代」の幕開け	2
2. エコミュージアムとは	3
(1) フランスでの誕生	3
(2) 日本でエコミュージアムへの関心が高まった経緯	4
(3) エコミュージアムの類型	4
3. 北広島市とエコミュージアム	5
(1) エコミュージアムの手法を取り入れる経緯	5
(2) 北広島市の遺産（自然遺産、歴史遺産、産業遺産）	6
(3) 北広島市のまちづくりとエコミュージアム	7
(4) 北広島エコミュージアムと経済	8
第2章 北広島エコミュージアムの基本理念としくみ	9
1. 北広島エコミュージアムの基本理念	9
2. 北広島エコミュージアムの概略図	10
	【参考図：北広島エコミュージアムの概略図】
3. 北広島エコミュージアムのしくみ	12
(1) 遺産の発掘	12
(2) 遺産の物語化	12
(3) コア施設の設定	12
(4) サテライトの設定	13
(5) 主動線	14

(6) 発見の小径（こみち）	14
(7) サインの統一	14
(8) 景観設計	14
第3章 北広島市の遺産と具体的展開	15
1. エコミュージアムへの出発点……遺産発掘	15
(1) 自然遺産	15
(2) 歴史遺産	15
(3) 産業遺産	15
(4) その他の遺産	15
2. エコミュージアムの物語づくり・発見の小径	16
3. エコミュージアムの地域づくり	16
第4章 推進体制	17
1. 北広島エコミュージアム推進委員会	17
2. 市民参加の具体的展開	17
(1) 各地域のまちづくり団体の組織化	
(2) まちづくり団体の各種事業	
3. 交流活動の推進	17
(1) 子どもたちによる活動	
(2) 高齢者との世代間交流	
(3) 市外関係者との交流	
4. エコミュージアム推進 NPO（非営利組織）	18
5. 推進組織と成長イメージ	18

【参考図：北広島エコミュージアムの組織と推進イメージ】

はじめに

北広島市は、明治17年、一村創建の志を持ち広島県から移住した25戸103人により開墾が始められ、村から町、そして人口6万人を超える都市へと発展を続けてきました。

そのような北広島市には、冷害や水害など多くの困難や労苦に見舞われるなかで、英知と情熱を傾け困難を乗り越え、発展を支えてきた先人たちの歴史があります。

寒地稲作に生涯を捧げた中山久蔵翁の情熱や一村創建の志をもって広島村を開村した和田郁次郎翁の開拓者魂、そしてクラーク博士の「青年よ大志をいだけ」の精神を私たちは忘れてはいけません。私たちには、これらの歴史の事実と意義を十分に認識しながら、このまちの歴史や文化、遺産などを多くの人に知らせ、永く後世に伝えていく使命があります。

このため、私はまちづくりの重要な施策のひとつに「北広島エコミュージアム構想」の策定を掲げております。

本市が持つ自然や風土、伝統や歴史、そしてこの地に培われてきた特有の文化を再発見していただき、多くの市民の皆様がこの地に誇りを抱くことは、まちづくりにとってとても大切なことです。

市民の皆様がこのまちに誇りをもち、生き生きと心豊かに、そして安心して暮らせるまちづくりへと「北広島エコミュージアム構想」が繋がっていくよう願っております。

最後になりますが、本構想の策定にあたり、文化財保護審議会並びにエコミュージアム推進委員会の皆様のご熱心なご審議をはじめとして、市議会や関係団体、そして市民の皆様から貴重なご提言をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

平成22年2月10日

北広島市長 上野 正三

第1章 まちづくりとエコミュージアム

現在、日本は「地域づくり」という課題に直面しており、エコミュージアムは、「地域づくり」のための望ましい解決策のひとつと考えられています。北広島市は分散型の地域形成や、市民の文化度や学習意欲の高さなどで、エコミュージアムの考えを活用した「地域づくり」を行うための条件が揃っています。

1. 背景となる社会情勢

(1) 情報化社会・国際化社会の進展

元号が平成へと移った頃、将来の社会のあり方として「情報化」や「国際化」が叫ばれました。現代は、インターネットや携帯電話などのモバイル機器の普及によって、誰もが予測もしなかった情報化社会が今も進行しています。

また、運輸・情報通信技術の発達によって地球規模での国際化、いわゆる「グローバル化」現象が進展しています。しかし、「グローバル化」を受け入れていくにあたっては、今まで以上にそれぞれの国や地域が固有の文化や伝統を守る意識や技術が必要となってきました。

(2) せまられる環境問題への対応

グローバル化の問題と並行して、国際社会が一致して地球規模の問題であると認めているのが、環境問題です。加速する地球温暖化を防ぐために二酸化炭素削減への対応は急務のものとなっています。一人一人が地域の自然を守り、育てる行動を開始しなければならぬという時代がすでに始まっているのです。

(3) 進行する少子高齢化

昭和の後期頃から、日本においても少子化傾向がもたらす高齢化社会への懸念が表明されるようになり、具体的には、年金・保険・医療などさまざまな面でのひずみが現実のものとなり、現在も速度を増しています。

少子高齢化・核家族化は、精神面での文化・伝統の継承にもまた深刻な影響を与えており、伝えるべき人々の高齢化、受け継ぐべき若者の減少、それらを結ぶ過程での様々な障害、こういったことを地域ぐるみで解消する新しい交流手法を見出す必要性があります。

(4) 「地方の時代」の幕開け

平成7年(1995)に「地方分権推進法」が成立し、平成10年(1998)に「地方分権推進計画」が策定され、平成11年(1999)には「地方分権一括法」が制定され、「地

方の時代」という言葉がより現実味を増してきております。

今後は、地域が自らの選択と責任で地域づくりを行うという自治体の主体性が問われることとなります。そのためには市民の積極的な参加を求め、個性的で魅力的な地域づくりへの取組みを支える方向性が求められています。

2. エコミュージアムとは

(1) フランスでの誕生

エコミュージアムの歴史は、1960年代に始まります。フランスの博物館学者であるアンリ・リヴィエールは、まったく新しいタイプの博物館を提唱したのです。それは、ある地域全体を博物館としてとらえるもので、まちづくりの考え方を含んでいました。

1960年代後半のフランスと現代の日本には、いくつかの共通点が認められます。長年続いてきた中央集権的な制度のために、地方から中央への人口流出が続いて過疎化が進行していたこと、すでに少子化や高齢化の問題が表面化していたこと、地域の環境汚染問題という形で現代の地球環境問題の議論が始まっていたことです。言い換えれば、当時のフランスでは、現在の日本と同じように地方から元気が失われていました。これに対して地方分権を進めて活性化していこうという機運が巻き起こっていたのです。

こういった状況を背景として、リヴィエールはある一定の地域に残された、史跡、建造物、産業遺跡などに注目し、これらを将来にわたって保存すべき「遺産」ととらえ、展示したり、活用したりすることで、その地域全体を屋根のない博物館とすることを提唱しました。

この屋根のない博物館は、地域の遺産全体をさまざまなかたちで活用してゆく、まったく新しいタイプの「地域づくり」の手法となりました。これが、フランス語でエコミュゼと名づけられたのは次のような理由からです。



<http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/0/0f/Strasbourg-RemiLeblond-PontsCouverts.JPG>

エコとは、エコロジー（生態学）のエコです。ストックホルム会議によつ

て、初めて国際的に地球環境問題が議論の的となった時代背景を象徴しています。エコは同じく、エコノミー（経済学）のエコでもあります。急激な都市化によって元気を失った地方経済の復興が重要な課題だからです。

エコは語源的には古代ギリシア語のオイコス、すなわち「家」という意味で、ここでは「生活を取りまく環境」の意味で使われています。なお、フランス語のミュゼは

英語のミュージアム（博物館）にあたります。その後エコミュゼは、フランス語圏、北ヨーロッパを中心に世界中に広がっていき、一般には英語でエコミュージアムと呼ばれるようになりました。

世界に広がったエコミュージアムは、それぞれの土地ごとの文化・風土に合わせて多様に展開していきました。しかし、どのエコミュージアムも共通して、次の3つの重要な機能を持っています。第1番目は、地域にある遺産を現地で保存するという機能です。この点では、遺跡や自然公園などに似ています。第2番目は、地域に密着した博物館としての機能です。地域の有形・無形の遺産を収集保存、調査研究し、展示したり、教育普及活動を行ったりするのです。この点では、これまであった博物館と似ています。第3番目は、住民が主体的に参加する場を保障するという機能です。エコミュージアムの遺産は、住民が日々生活している場にありますので、住民の参加を欠かすことはできません。

(2) 日本でエコミュージアムへの関心が高まった経緯

このように、エコミュージアムはフランスに始まり世界に広がっていきました。そして、1990年代に入ると日本でもエコミュージアムに関心を持たれるようになります。1960年代のフランスと同じように、全国各地で「町おこし」「村おこし」の名のもとに、さまざまな取組みがなされるようになってきました。

そういった中で、地方が自信を取り戻し、ふたたび元気になるためには、各地において地域のアイデンティティーすなわち「その土地らしさ」を確認していくことが重要であるという考えが生まれ、それを具体化する実践が始まります。昔ながらの町並みを保存しようという動き、地域の特産品にふたたび光をあてようという動き、また地域の伝統を高齢者から若い世代に伝えていこうという動きなどです。地域からのさまざまな活動を展開していた人たちが、エコミュージアムに注目するようになり、現在、国内の多くの地域で、エコミュージアムにヒントを得た、さまざまなタイプの地域おこしの活動が推進されています。

(3) エコミュージアムの類型

日本におけるエコミュージアムのありかたは千差万別です。大別すれば、下の4つのタイプに分けることができますが、これらのうちの複数の要素を持ったタイプも少なくありません。

すべてのタイプに共通している要素は、それぞれの地域で最も特徴的な「遺産」を探し出し、誰もがその魅力を理解できるように整備していくという点です。

- 〔ア. 総合型エコミュージアム〕 — 地域の各種「遺産」を保全し、博物館的な収集、研究、展示、教育を行い、主体的な住民参加を押し進めていくタイプ。
 山形県朝日町「町は大きな博物館」
 兵庫県西脇市
 「北はりまエコミュージアム」
- 〔イ. 遺産保存型屋外ミュージアム〕 — 伝統的な町並みや、歴史・考古・産業関係の遺跡など、有形の「遺産」の保存・復元などを中心に整備を進めていくタイプ。
 岡山県津山市「城西まるごと博物館」
 神奈川県川崎市川崎区
 「かわさき産業ミュージアム」
- 〔ウ. 都市型まちかど博物館〕 — 市街地内に点在する店舗において、産業技術や伝統文化に関する展示をする、ミニ博物館の集合体を中心とするタイプ。
 大阪市平野区「町ぐるみ博物館」
 群馬県みなかみ町「たくみの里」
- 〔エ. 自然型フィールドミュージアム〕 — 自然そのものをあるがままに見せる、自然資源活用型、又は自然観察学習型のタイプ。
 北海道中川町エコミュージアム

キャンパスがまるごと環境博物館！
 (日本工業大学・工業技術博物館)



3. 北広島市とエコミュージアム

北広島市には実に多彩な遺産がそれぞれの地域に分散しています。北広島市は、まち全体がエコミュージアム構想を推進する上でふさわしい遺産を持つまちといえます。

(1) エコミュージアムの手法を取り入れる経緯

北広島市には国指定史跡の旧島松駅通所があり、W・S・クラーク博士が帰国する際、馬上から残した言葉「Boys be ambitious」は全国的にも有名です。この旧駅通所敷地内にW・S・クラーク博士と寒地稲作の祖である中山久蔵の記念碑が建立され、周辺の保存・活用に努めてきました。また、市に点在する文化財の保全等の事業を実施してきましたが、郷土資料の収蔵や展示を行う中心的な施設が不足していることや、史跡・文化財の風化・劣化が危惧されています。

市民の間では、この地に古くからあった伝統的なものを保存・活用していくべきという声もあがっています。そして、地元にある史跡や昔からの言い伝えを集めて、若い世代に伝えていこうという機運が各地で高まってきました。いくつかのボランティア団体や市民により地域遺産を記した地図づくりも始まっています。

(2) 北広島市の遺産（自然遺産・歴史遺産・産業遺産）

エコミュージアムは地域の「遺産」をもとにしてつくっていくものです。それでは「遺産」とは何でしょうか。国や県、市による指定文化財はもちろん「遺産」です。一方で、地域住民の生活を支えてきた民具なども「遺産」ですし、ある意味では、地域にあるすべてのものが遺産であるとも言えるのです。形のあるものだけでなく、年中行事や郷土芸能、伝説や言い伝え、さらには地域の人々の心に残っている「記憶」も遺産です。その他にも樹木や鳥、川の流れや雪景色など、自然そのものも遺産です。

かつて十数戸の広島県人が過酷かつ雄大な北海道の大地にまちをつくり、それを受け継いできた多くの先人の志と労苦があればこそ、今の北広島市があります。

北広島市を構成した自然と、開拓者としてのフロンティア・スピリッツと、その偉業に尊敬の念を抱くことなしに北広島の遺産を語ることはできないでしょう。そのような北広島市の特徴を大きく3つの章で構成しました。

第1章は、「豊かな自然に恵まれた」まちであること。

特別天然記念物野幌原始林、大規模斜交層理（クロスラミナ）などの代表的な自然遺産が存在します。その他、市内で産出する貴重な化石が、野幌丘陵を中心に市内に広く分布しています。

そして、豊かな自然に生息する動物や植物など、人々を癒し、時には畏敬の念を払わせるような自然の風景など、環境と一体となった重要な遺産です。



第2章は、「大いなる志を抱いて来た」先人のまちであること。

史跡旧島松駅通所に代表される数々の開拓の歴史を継承していくことは、現代に生きる私たちの大事な責務です。また、年中行事や郷土芸能、伝説や言い伝え、さらには地域の人々の心に残っている「記憶」も、何らかの形にして残していかななくてはならない貴重な遺産です。



旧島松駅通所



軟石建造物

第3章は、「匠の偉業に支えられた」まちであること

開拓の歴史は過酷な自然との闘いであり、融合でした。島松軟石を使用した住宅や倉庫群、暮らしの向上を不断にめざした痕跡を残す生活用具・農機具などが現在も残存しています。生活様式の変化と共に見捨てられてしまう匠の技を後世に残すこと、また、まちの発展の節目節目に、その足跡をとどめるために建立された記念碑や像なども完全な形で残し、多くの人々に伝えなければならない遺産です。



(3) 北広島市のまちづくりとエコミュージアム

このように、北広島市にはエコミュージアムづくりの土台をかたちづくる各種の「遺産」が数多くあります。ただし、個々の遺産については、北広島市民の誰もがよく知っているというわけではありません。エコミュージアムづくりは、市民の参加によってこれらの「遺産」を発掘、再発見していくことから始まります。

その結果として、数多くの遺産に恵まれた北広島市に住んでいることへの誇りが生まれてきます。北広島市民が地元に対して誇りを持って暮らしていくことこそ、エコミュージアムの考え方として、最も大切にしたいことです。

北広島は、どんなまち？

▼ 豊かな自然に 恵まれたまち

- ▽自然
[地誌]
[動植物]
[景観]

[化石]

▼ 大いなる志を 抱いてきたまち

- ▽遺構
[遺跡] [遺物]
- ▽開拓
[碑]
[歴史的建造物]
- ▽近代・現代
[碑・平和]

▼ 匠の偉業に 支えられたまち

- ▽アーキテクチャ
[建造物など]
- ▽アグリカルチャー
[農機具など]
- ▽アート
[銅像など]

(4) 北広島エコミュージアムと経済

エコミュージアムは、遺産を発掘して整備するまちづくりの手法です。北広島市民が誇りを持てる遺産は、観光客をはじめ市外の方にとっても魅力的なものとなります。名だたる名所旧跡をバスで忙しく駆け回る従来型の観光スタイルもまた変容してきています。エコミュージアムづくりが進めば、北広島市がどのような土地であるのかが観光客などにも全体像とともに各地域の特色がわかり、興味を持って巡ることができるまちになります。

そうなることにより、商店や企業なども北広島市のまちに大きな価値を見い出すこととなります。市民がまちを発掘し、知ることは、とりもなおさず経済面でも北広島市を魅力的な地としてアピールする手がかりとなるのです。

エコミュージアムは、決して北広島市在住の人たちだけのものではなく、市内の事業所・団体にとっても活性化の手法となりえることから、多くの関係機関・団体の協力を得る取組みが必要です。

第2章 北広島エコミュージアムの基本理念としくみ

エコミュージアムは、市民が中心となって各種の遺産を発掘することから始まり、拠点施設、サテライト施設などの整備に進みますが、景観やデザインに対する配慮も重要です。

1. 北広島エコミュージアムの基本理念

さて、北広島市は、どんなまちなのでしょう？ 例えば、北海道の大地にあり、豊かな自然に恵まれ、大地の隆起により海の底が陸となり、様々な動植物が訪れ、人が集落を形成し、さらに古くは縄文人であり、開拓以前は先住民族が暮らしていた。そのような痕跡が北広島市には数多く分布しています。

明治17年広島県からこの地に北広島市の祖が入植してきました。この人たちには、一村創建の夢があり、様々な創意工夫と不撓不屈の精神で、北海道の厳しい自然に打ち勝ち、現在の北広島市が生まれました。そこには、生きるための匠の技が今も息づいています。

こうした風土と歴史をもとにして、北広島市はエコミュージアムを展開していきます。北広島エコミュージアムは市内各所にあり、風土と歴史が残してくれた歴史、自然、産業に関係するさまざまな事柄、すなわち「遺産」の発掘から始まり、保存、活用へとつながるものです。

しかし、市内の遺産の中には見落とされているものもあります。遺産を発掘することは、それまで見落としていた遺産に新しい光をあて、市民自らがその価値を再認識していくことです。遺産を発掘し、保存、活用していく過程において、「北広島市とはどういう地域なのか」を認識できるようになります。このことにより、市民が、地域の環境や歴史的遺産などに尊敬と感謝の念を持ち、そこに住んでいる自分たちを誇りに思えるようになってくるようなことが期待できます。

これらのことから、エコミュージアムの手法の特色には、みんなが力を合わせてつくるということがあります。エコミュージアムは、行政と地域住民が協働し、保存、活用を図り、実現していくものです。エコミュージアムとは、北広島市に住むすべての人々がそれぞれの考えを出しあい、協力して自分たちの住む北広島市をつくりあげていくものです。また、縦のつながりだけではなく、市民全体の気持ちが一体となった横のつながりを深めることも大切です。

北広島エコミュージアムは、まちに新しく何かをつけ加えるものではなく、本来持っていた北広島市の豊かな自然や風土、伝統や歴史の中に新しい価値観を市民全員が見出してゆく、いわば「自分探し」といえます。

このように、地域から盛り上がることにより北広島市は活気ある元気なまちとなっ
ていきます。そして、エコミュージアムによって元気なまちとなった北広島市に対し
て、市外の多くの人々が北広島市の魅力に注目するようになり、市内外の交流が始ま
ります。この交流によって北広島市は活性化され、まちの発展につながっていくこと
が期待されます。



北広島市指定文化財「サンドリッジ成大規模斜交層理の転写標本」

採集場所:北広島市中の沢

標本展示:北広島市中央公民館

2. 北広島エコミュージアムの概略図

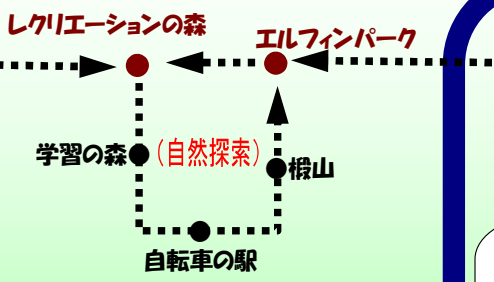
北広島市は、主要な道路に沿って東部・北広島団地・西の里・大曲・西部など各地
域が個性豊かな地域を形成するまちです。そのため、現在も各地域で独自の文化を育
んでいます。今後は、各地域が歴史的文化遺産における交流を深めてゆくことが重
要です。

この概略図に挙げた遺産は、その地域の特色を示した一例です。これらを生かしてエコミュ
ージアムというフレームの中で、お互いに関連性を持たせ、つなげていくことによっ
て、新たな発見や交流が生まれ、各地域住民としてだけでなく、北広島市民として
のふるさと意識が育まれることが期待されます。

北広島エコミュージアム・概略図

サテライト レクリエーションの森

特別天然記念物野幌原始林に隣接したレクリエーションの森を起点に、中の沢・団地方面、西の里方面へ向かう自然遺産探索が考えられます。



サテライト エルフィンロード・自転車の駅

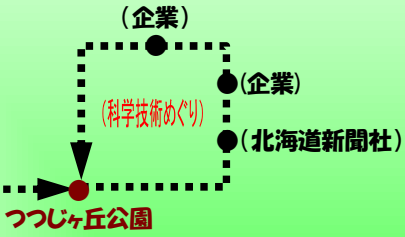


エルフィンロードを動線として西の里へ向かい楸山など原生林を探索する重要な拠点となります。自然環境保護事業と合わせた北広島の自然を演出するサテライトをつくることも望ましいといえます。まちの自然を楽しむだけではなく、環境保護の啓発事業などと連動し、自然を守り・育ててゆく取組みと一緒になったエコミュージアムの展開が必要です。

サテライト 大曲工業団地



時代は新しいのですが、まちの産業遺産として各工場の見学ツアーなどが考えられます。



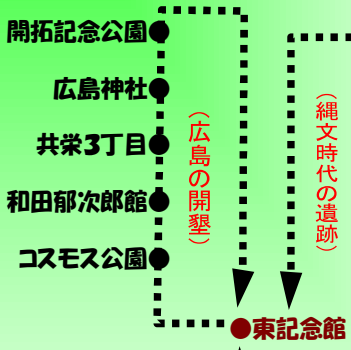
コア施設の機能

拠点施設は、サテライト間のネットワークをつかさどり、企画や運営を行う中心的な施設です。

- ・事務局（教委） ・教育普及
- ・調査研究 ・情報サービス
- ・ライブラリーとして
- ・展示・収集保存 ・……

サテライト 旧島松駅通所付近

史跡公園として旧島松駅通所を中心とする計画的整備により、西部地区エミュージアムの拠点となります。



サテライト 開拓記念公園



東部地区の開拓記念公園・和田郁次郎記念館・広島神社・音江別・北の里など周辺の開拓当時の様子を偲ぶ格好の地となります。



3. 北広島エコミュージアムのしくみ

(1) 遺産の発掘

北広島市の各種の遺産発掘は、これまでも様々な機会を通じて各地域で取り組まれています。こうして集められた情報を、博物館資料として、統一した形式でデータ化するとともに、その収集体制を確立しなければなりません。

(2) 遺産の物語化

個々の遺産について登録し、必要に応じて保存・整備をした遺産については、1か所に集めることができないので、グループ分けをして、それぞれについて物語をつくっていきます。たとえば、自然探索、縄文時代の遺跡、旧島松駅通所と中山久蔵翁などの物語づくりを進めていく上で、市民が自由に参加することが望まれます。

(3) コア施設の設定

北広島市のさまざまな遺産についての発掘が行われ、物語づくりが進められていくにしたがって、遺産に関する情報や資料を集積し、保全する必要が生じます。とりわけ、重要な文化財の指定や保存はエコミュージアム構想にとって必要不可欠の取組みとなります。また、そうした情報や資料の収集・保存のための活動を中心に、エコミュージアム全体の円滑な運営と情報発信を進めてゆく中心となる施設（コア施設）が必要です。

コア施設では、収集・保存や運営の他に、市民参加、情報サービス、歴史展示、ライブラリー、教育普及など、さまざまな活動が推進されることとなります。また、実際に見て回ることでできない伝説や民話などを展示・紹介していく機能もあわせもちます。このように、コア施設はエコミュージアム全体にとって中心となる施設ですので、地理的にも交通の便といった面でも、北広島市の中心近くに設けられる必要があります。また、一般的に次のような機能と、それを実現するための施設・設備が必要とされると考えられています。

- ア エコミュージアム全体の運営（本部事務局）
- イ 情報・資料の収集・整理・保存（作業場・収蔵庫）
- ウ 住民活動の拠点（集会室）
- エ 情報サービスの発信・提供（資料情報センター）
- オ 歴史などの展示（展示コーナー）
- カ エコミュージアムに関するライブラリー機能（図書室）
- キ 教育普及活動（実習室、講義室・映写室、ミュージアムショップ）

これらの機能の中でも、情報・資料を収集し、保存・活用を図ることが重要ですが、エコミュージアムの全体像をわかりやすく解説するという情報サービス機能や、住民参加活動の場を提供することなども大切なことです。

(4) サテライトの設定

エコミュージアムにとって、拠点施設と並んで重要な役割を持つのがサテライトです。サテライトは、基本的には、遺産の物語化に応じて抽出され、設営されることになります。

具体的なサテライトの整備方法には、さまざまな可能性がありえます。地域の公共施設が拠点となり、地域住民と一体となったサテライトづくりが必要です。



■候補地 01（旧島松駅通所周辺）

旧島松駅通所を中心とする史跡公園などの計画的整備に伴い、史跡公園として西部地域エコミュージアムの拠点となります。



■候補地 02（開拓記念公園）

東部地域の開拓記念公園・和田郁次郎記念館・広島神社・音江別・北の里など周辺の開拓当時の様子を偲ぶ格好の地となります。



■候補地 03（レクリエーションの森）

レクリエーションの森を中心とした特別天然記念物野幌原始林を起点に、中の沢・団地方面、西の里方面へ向かう自然遺産探索の起点としての活用が考えられます。

■候補地 04（自転車の駅）

エルフィンロード（自転車道）を動線として西の里へ向かい、椴山など原生林を探索する重要な拠点となります。自然環境保護事業と合わせた北広島市の自然を演出するサテライトをつくることも可能であります。まちの自然を楽しむだけではなく、環境保



自転車の駅

護の啓発事業などと連動し、自然を守り・育ててゆく取組みと合わせたエコミュージアム構想の推進が必要です。

■候補地 05（大曲工業団地）

時代は新しいのですが、まちの産業遺産として工業団地に連なる工場群の見学ツアーなども地域の特性としてサテライトとなり得ます。



(5) 主動線

エコミュージアムは、拠点施設を中心にサテライトが分散しています。これらの施設を自然につなぐような道が主動線です。これは、博物館において展示を見やすくするために順路があるのと同じことです。主要なサテライトを互いにつなぐ一方で、市内を巡ることでまち全体での交流が盛んになり活性化されます。

(6) 発見の小径(こみち)

それぞれの地域にある遺産をたどったり、テーマ別に遺産をめぐる道です。地元の人たちが中心になって、経路の設定や整備の方向性などを決めていきます。たとえば、エルフィンロードなどを活用するなど、コース設定の工夫が必要です。

(7) サインの統一

目的に即してサインのデザイン、素材を統一し、エコミュージアムを明解に表現して、市内外から訪れた方々にもわかりやすく整備する必要があります。遺産の標識や発見の小径での誘導標識の設置は、既存の標識や説明板との調整を図る必要があります。

(8) 景観設計

エコミュージアムにとって景観への配慮は重要なことで、全体の景観との関係を常に意識する必要があります。そして、新たに施設をつくるにあたっては、地域の自然がおりなす風景や、歴史の中でかたちづくられてきたまち並みなどと調和することが前提となります。

従来の施設を活用する手法もエコミュージアムとしては趣旨に適ったものであり、今後は利用可能な施設の活用を検討していく必要があります。

第3章 北広島市の遺産と具体的展開

構想の推進にあたっては、地域にある歴史、自然、産業の遺産を列挙していくことから始め、その中でおのずと現在のまちの姿が浮かび上がってきます。その後、各地域に密着した、知られていない遺産も含めて発掘を広げていくことが大切です。

1. エコミュージアムへの出発点……遺産発掘

北広島市には、数多くの遺産があります。それらは、大きくは自然遺産、歴史遺産、産業遺産の3種類で構成されています。エコミュージアムづくりの出発点は、これらの遺産を発掘していくことです。

北広島エコミュージアム構想の理念と調和を保つようにして、これらの各地域資源を分け隔てなく保存・活用していくことが課題となります。

(1) 自然遺産

およそ50万年前、かつて海であった地が隆起し、北広島市の地形ができました。やがて、そこは平野・森林となり、哺乳類、鳥類など動植物が数多く生息する地となりました。北広島市は、自然との共存を大切にしてきた歴史を持つまちです。

このように北広島市の地形を始めとする自然遺産は、北広島市の特性を語る時には欠かすことのできない要素です。

(2) 歴史遺産

北広島市には縄文時代から現代に至る各時代の中で、土器・石器とりわけ開拓期における農機具等の歴史遺産があります。これらは北広島エコミュージアムの根幹をなすものであり、多くの可能性を秘めています。

(3) 産業遺産

北広島市は、開拓当時から農業、石材業、林業などの産業によって支えられ、発展してきたまちです。農機具・軟石の建造物群などの産業遺産を見直し、保存・活用していく必要があります。

(4) その他の遺産

このほかにも、無形文化財等のいずれの分類にもあてはまらない遺産があります。

2. エコミュージアムの物語づくり・発見の小径

北広島市内にある様々な遺産。これらを列挙していくと、その中から、おのずと歴史が見えてきます。エコミュージアムづくりとは、北広島市の歴史物語をまち全体というスケールで把握し、これらを発信することでまちづくりと不可分のものなのです。

ここでは、いわゆる北広島市の中でも、よく知られているものを代表的な発見の小径として挙げますが、これからエコミュージアムの活動によって、物語づくりを豊富なものにする必要があります。

発見の小径の例『化石めぐりの小径』

サンドリッジ成大規模斜交層理の転写標本

【市指定文化財】(中央公民館：朝日町)



ほ乳動物の骨格模型・貝化石

(東記念館：朝日町)



海であったことがわかる土地

(中の沢)



ホワイエの化石探し

(芸術文化ホール：中央)



壁面拡大：アンモナイト



アンモナイト

(達磨寺：富ヶ岡)



3. エコミュージアムの地域づくり

北広島市には多くの遺産があり、その遺産によって各地域が特徴づけられます。各地域の概要をまとめ、その特徴を明確にすることによって、各地域における今後のエコミュージアムによる地域づくりに活用することができます。

第4章 推進体制

北広島エコミュージアムは、今後、北広島エコミュージアム推進委員会が中心になって推進していくことになります。さまざまな形態での市民参加や、交流活動が展開されていく中で、NPO（非営利組織）による推進という課題もでてきます。エコミュージアムづくりに欠かすことのできない、市民の参画、市内各種団体の積極的関与、行政の推進組織による支援などの関係も明らかにする必要があります。

1. 北広島エコミュージアム推進委員会

推進委員会は、エコミュージアムづくりの主体となる組織です。エコミュージアムの特色である「みんなが力をあわせてつくる」ことを実現するためには、まちづくりを目的とするいくつもの団体や個人さらには行政機関が連携しあうことができる組織とする必要があります。

委員会を構成するメンバーは、各地域のまちづくり団体、産業や教育にたずさわる各種団体、博物館やリゾートなど各種施設、NPOなどを代表する人々から選ばれます。

委員会の目的は、何よりも北広島市全域におけるエコミュージアムの方向性や活動の検討および具体的な取組みにあたることです。さらに、エコミュージアム構想を推進するための評価作業を行い、地域相互の連携と協力を支援し、各地域や各種団体の情報交換の場を進めていきます。

2. 市民参加の具体的展開

エコミュージアムは「北広島エコミュージアム推進委員会」の力だけでつくれるものではありません。いろいろなかたちで、北広島市民の参加を得て、行政の支援のもとで展開される必要があります。

- (1) 各地域のまちづくり団体の組織化
- (2) まちづくり団体の各種事業

3. 交流活動の推進

遺産発掘と並ぶ重要な課題として、さまざまな交流活動の推進が挙げられます。世代間の交流や、広域的な交流を通じて、生き生きとしたエコミュージアムづくりが可能となります。

4. エコミュージアム推進 NPO（非営利組織）

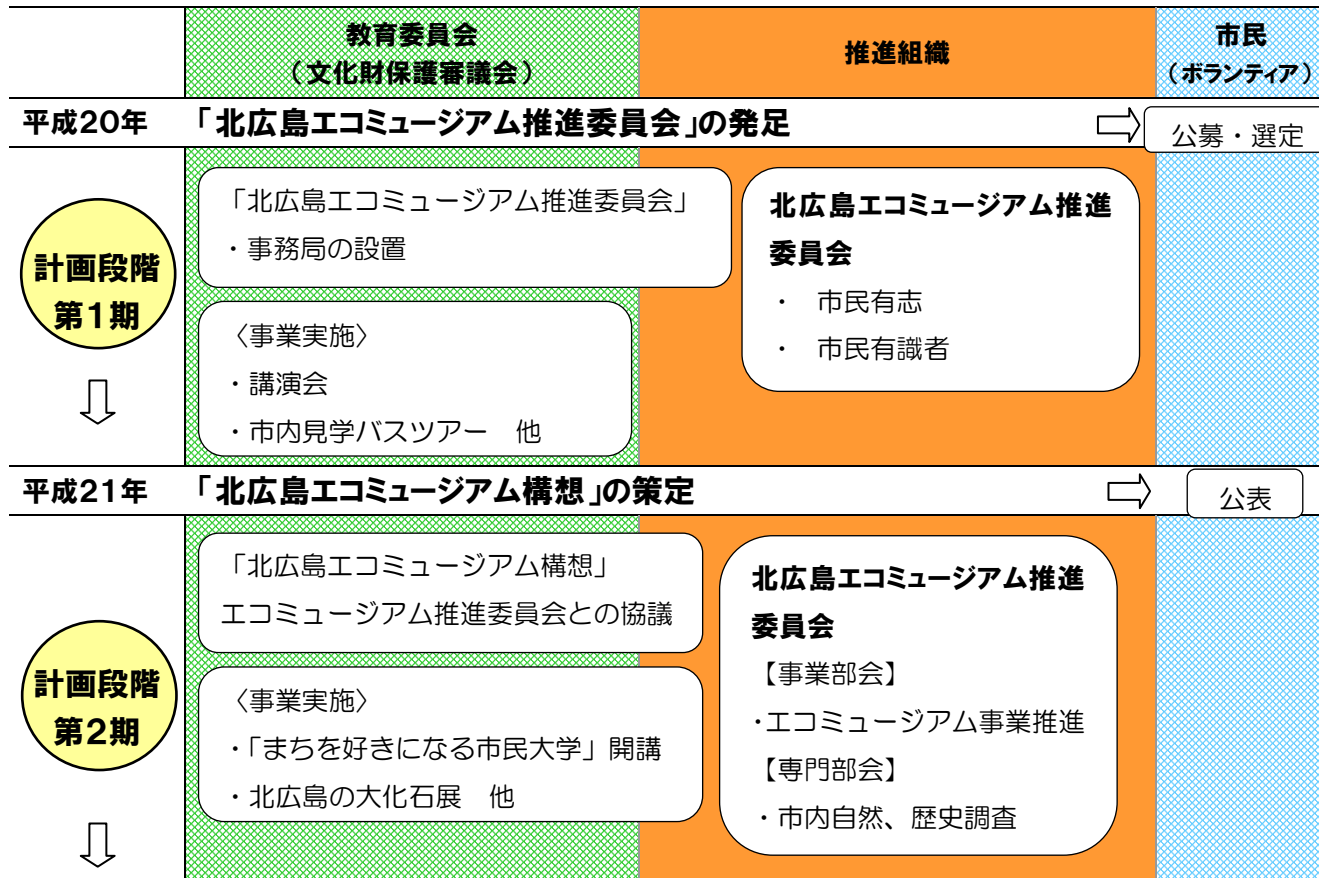
構想を推進していくには、ボランティアによって支えられることが不可欠です。たとえば、拠点施設の運営やサテライト施設の維持管理、ガイドやインストラクターの養成、伝統行事の伝承など、ボランティアの活躍が重要な鍵となります。

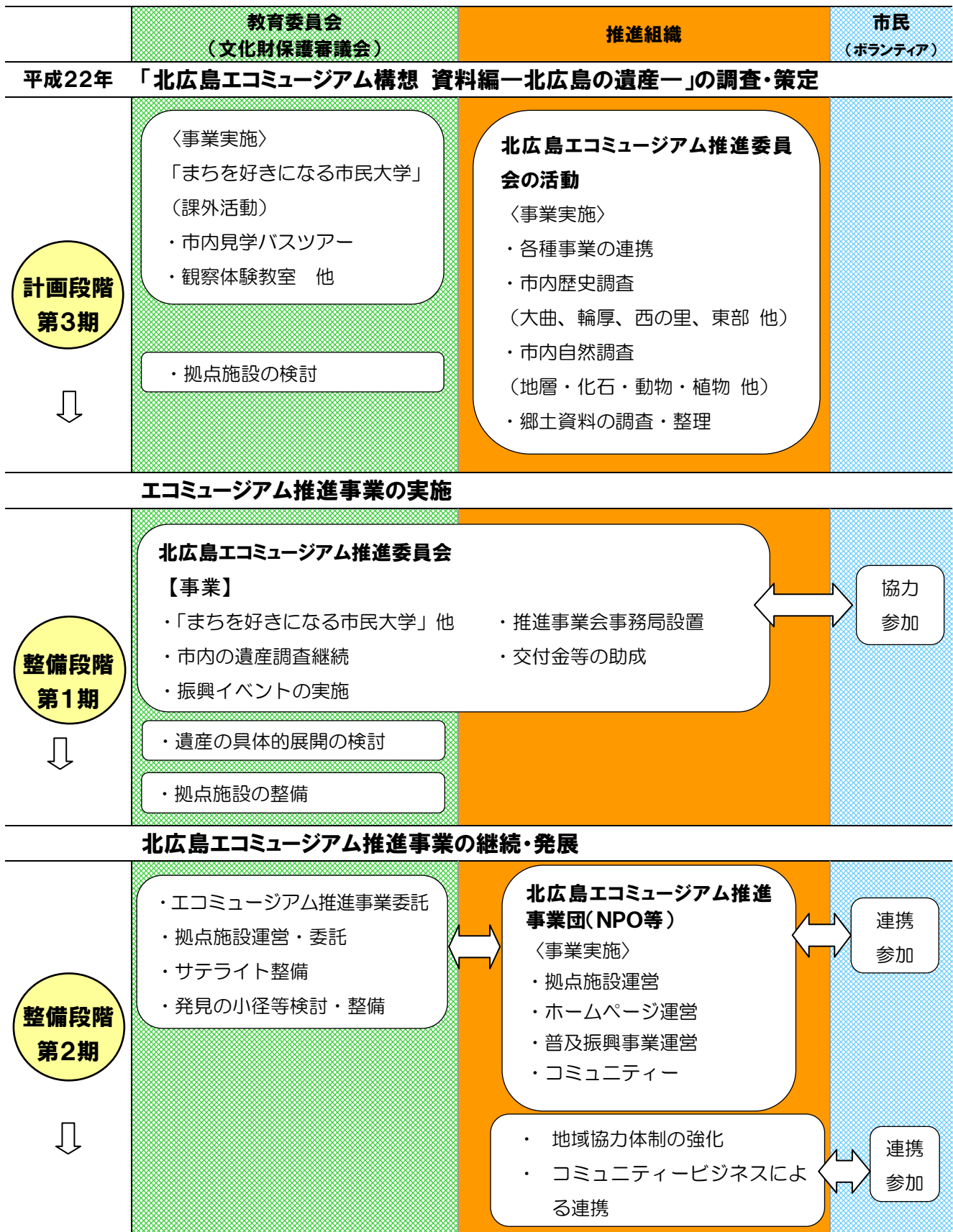
エコミュージアムづくりを支えるさまざまなボランティア活動を支援するためには、「エコミュージアム推進事業団」などのNPOを設立することなどが期待されています。この組織の支援によって、意欲的な個人やグループで運営されるコミュニティビジネス（市民が主体となる地域産業）の振興が可能となります。

5. 推進組織と成長イメージ

市民と行政の関係やエコミュージアムの成長イメージは、次の図のような段階を計画的に推進することが大切です。そして、将来的には一般的なまちおこしの公共事業から、コミュニティビジネスへと成長させる視点が必要です。今後、市民によって発掘される新たな遺産を含めて、それらの遺産を保存し、活用を図り、エコミュージアムを推進していきます。

北広島エコミュージアムの組織と推進イメージ





北広島エコミュージアムの公式ロゴマークと公式署名

designed by masatoshi,Yamamoto(山本祐歳)

北広島エコミュージアム推進委員

北広島エコミュージアムの公式ロゴ(official Logo)



堆積された地域の記憶を、アースカラー・マーブル状の球体として表しています。文字とともに北広島市の地形が刻み込まれています。

北広島市エコミュージアムの公式署名 (official Signature)

「川」をイメージしたオブジェクトを中心に、周辺には個性豊かな5つのサテライトを示す丸をカラフルに配しています。



発行：北広島市教育委員会

住所：〒061-1192 北海道北広島市中央4丁目2番地1

電話：011-372-3311

F A X：011-372-4525

平成22年3月31日